

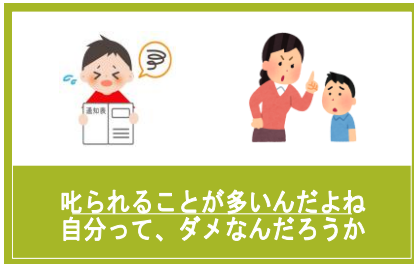
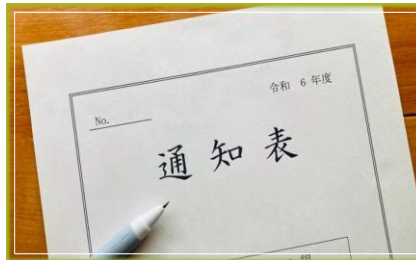


2025

学校だより **本荘** Smile

令和7年度 第32号
令和7年12月18日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

10月の学校朝会は通知表についてでした。みなさんは、通知表ってどんなイメージですか？



10月の学校朝会は「通知表」についてお話ししました。この日は前期の通知表を渡す日だったのでグッドタイミングだったので。通知表ってどんなイメージでしょうか。私のように戦々恐々だった方、オール5をねらっていた方(笑)、先生の優しい言葉があった方、「いつも落ち着きません」と書かれていた私(トホホ)、人それぞれでしょう。特に昔の通知表には、当時の西川少年の通知表のようにきびしい言葉も少なくはなかったようですね。

そもそも通知表とは何なのでしょう。一般的には、学校が児童・生徒の学習の成績や学校生活での様子などをまとめ、保護者(親)に知らせるための書類とされています。「通信簿(つうしんぼ)」と呼ばれることもありますよね。通知表の目的は、学校と家庭が子どもの教育について協力し、子どもの成長を促すことです。具体的には以下の役割があります。

①学習状況の伝達

各教科で子どもがどの程度理解し、達成できているかを伝えます。

②生活態度の共有

学校での生活の様子、行動の特徴、友達との関わりなどを伝えます。

③成長の記録と励まし

子どもの良い点や成長したところを認め、今後の学習

への意欲向上に役立てます。

④家庭への協力依頼

通知表の内容を通じて、家庭での理解やサポートを求めます。

では、通知表に書かれている内容はと言いますと、通知表の形式は学校(小学校、中学校、高等学校)や地域によって異なりますが、一般的には以下のような項目が含まれます。

①各教科の学習の記録

以前は「優・良・可」などの5段階評価や3段階評価が一般的でしたが、現在は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」といった「観点別評価」(◎・○・△などの3段階)が主流です。

熊本市や本荘小もそうです。これらの観点ごとの評価を総合して、最終的な評定(小学校3年生以上ではABC)が決まることが多いようです。これは、所管の教育委員会によって違いがあります。ABCもあれば、123もあります。

②特別活動の記録

学級活動、クラブ活動、生徒会活動、学校行事などでの活動状況が記録されます。

③出欠の記録

欠席、遅刻、早退の日数などが記載されます。

④所見(先生からのコメント欄)(裏面に続きます)

担任の先生が、子どもの学校生活全体を通しての様子や成長した点、今後の期待などを文章で記述する欄です。通知表はここが重要です。しっかりと家族で読んでいただけると嬉しいです。

以上のように、通知表は、テストの点数だけでは分からない、学校生活全体での子どもの様子を知るための大切なコミュニケーションツールと言えます。だからこそ大事なのです。

この日の学校朝会では、通知表にきびしいことや課題が書いてあっても、気にすることはないこと、逆に自分の可能性と頑張っていくべきであることを伝えていきます。

先生方は、一人一人に手渡す際に、しっかりと個別にお話をしながら渡しています。本荘小学校では、こどもたちが笑顔でもらえる通知表をこれからも目指していきます。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「10月学校朝会 通知表について」

みなさんおはようございます。いよいよ10月になりましたね。今日は何の日ですか知っていますか。そうです、今日は、前期の通知表渡しの日なのです。どうですか？楽しみでしょう。

今、熊本市の通知表は、年に2回渡されることになっています。低学年の人は知らないかもしれませんが、元々は、学期ごとに年3回渡されていたのですよ。

成績に関しては、ABCの三段階評価ですよ。でも、ただ単にAがよくて、Cがだめというものではないのです。大切なのは、何ができるようにって何が課題なのかを理解すること、ふりかえることです。

その昔、校長先生がこどもの頃は5段階評価でした。こんな感じです。この通知表みたいに、全て5段階評価の5で夢のオール5をとりたいて思う人もいましたねえ。

これは、昔の通知表です。難しい漢字が並んでいますね。小学校2年3組の人の通知表。表の字が今と違って票になっていますね。

この頃は、今の評価と同じで優良可の3段階評価でした。今の通知表と絶対に違うところがあるのだけれど、みなさんは気づきましたか？そうです。文章がないんですよ。そこが今の通知表と違うところです。

もともと通知表は明治時代から始まりました。学校と家庭が教育の連携を深めるための往復連絡文書として登場しました。当初は成績の点数などを記載していましたが、次第に心性や行為、習慣なども記録されるようになり、学校と家庭の相互協力関係を築く上で重要な役割を担ってきました。この時代の学期ごとの試験は小学校でも、きびしくて、一定の成績をとらないと落第だったそうです。90点以上を優等、50点以上を及第、それ以下つまり、49点から下は落第となって次の学年に上げられなかったのです。

でも今は違います。通知表は、家庭に子どもの学習の様子を伝え、ご家庭の理解や協力を求める目的でつくられています。学校と家庭の連絡・連携のための重要なツールとして全国の多くの小中高校で発行されています。

今の通知表は、あなたの方のことしっかりと書いてある所見を読んでほしいのです。これは、校長先生がまだ担任の先生だった時の所見です。聞いてください。

友達よさに気づき、認めることが自然にできるように成長してきた〇〇さんでした。その姿に心の温かさを感じました。また、学習面では、毎日の自学に熱心に取り組みました。ていねいなノート、豊富な学習内容と、努力を惜しまない姿勢に感心しました。また、毎日の授業に対しても意欲的になり、国語や社会科の話し合いの際にも、自分で積極的に参加するようになってきました。算数の計算問題も、早く解く力がついてきて、ミニ先生になって他の友達にいていねいにアドバイスをしていました。このがんばりを二学期に続けて欲しいと思います。どうですか、元気が出ますかね。

続いて二人目です。休み時間には外で汗びっしょりになって遊ぶ姿が見られました。子どもらしい活気にあふれ、学習にも元気いっぱい〇〇君です。授業中の反応もよく、積極的でした。漢字の学習などでも、がんばって、作業も早く仕上げることができます。あまりに急ぎすぎて、少々乱雑になってしまうところもあるところが玉にきずなのですが、なにより元気よく活動する姿が一番の長所です。二学期は自分の「視野」と「心」を広く持って行動できるように話してあります。がんばってほしいと期待しています。どうですか？このコメントをもらったならうれいかなあと思って当時の西川先生は書いています。みなさんは聞いてみてどうだったでしょうか。

でも、通知表をもらうにしても、毎日の中で、叱られちゃうことが多いから、自分ってだめなんじゃないかと思う人も多いんじゃないですか？コメントにいっぱいだめなことが書いてあったらどうしようって心配する人もいるかもしれませんね。

でも大丈夫！！今心配している、君がもし、しかられていることが多いのなら、それは可能性があるからなんですよ。担任の先生も、校長先生も、本荘小学校の先生方は、正しいことは正しいとほめるけれど、いけないことや間違ったことにははっきりとダメ！と言います。厳しい言葉でしかることもいっぱいあります。でも、それは、あなた方に可能性があるからなのです。その可能性を伸ばすために時には厳しくしかることもあるのです。

よく、怒られるのが嫌だからとか、怒る先生は好きじゃないという人がいます。でも、なんで怒られたか、なんで叱られたか考えない人が一番いけないと校長先生は思います。だから、通知表にはあなた方の可能性が書いてあるはず！お家の方としっかりと呼んでくださいね。

今日の通知表は楽しみにしておいてくださいね。そして、後で玉井先生からお話があるけれど、勉強もスポーツも一生懸命にがんばりましょうね。

そして、いつものように「思いやりの心で笑顔の本荘小」を目指しましょう。これで、校長先生のお話を終わります。